vol.11 2024 Mar 27

Travelogue
Transfield Studio
Rick Yamakawa
Yuko Takeda

Design
Tezzo Suzuki + Harumichi Nakamura

Transfield Studioのおたより

O TA YO RI

今年のTransfield Studioは、作品発表だけでなく各地でのフィールドワークを通じた思考や経験を有料の「おたより」として発信することにしました。五月雨な経験がツアーへ変形していく過程や、色々な場所の様子を楽しんでもらえたら嬉しいです。
購読によるTransfield Studioへのサポートはこちらをご覧ください。
www.transfieldstudio.com/OTAYORI

◉ Transfield Studio 今後の活動予定 ……◉来週 川の博物館へ巨大な荒川の模型を見にいく ◉4月上旬 フライト二日前までACACにこもる（山川） ◉4月中旬〜6月中旬 寶蔵巖国際芸術村（台北）でリサーチレジデンス

上田 UEDA

山川 | Rick Yamakawa

MEMO 二年前から『マッキンダーの地政学――デモクラシーの理想と現実』を読んでいる。パレスチナ／イスラエルを訪れた後にすぐ買ったもの。自分が土地を見るときまずトレースし、かつ批判的に検証する対象となる設計／計画の視点を考えるために重要な本。リベルテと今年やることも、この本と切り離せないものになりそう。

長野県上田市に行ってきました

上田市

一年ほど前から通っている長野県上田市のことを紹介します。先週また出張してきました。通い始めたきっかけは、リベルテという就労支援B型、生活介護の福祉施設。設立から10年ほどの施設で、いまは一軒家サイズの建物4棟に分散して10代後半-70代までの利用者さんが通っています。それぞれの距離感は徒歩5-10分くらい。

千曲川

創作活動を「仕事」にしている福祉施設は全国各地にあって、いくつかの施設を訪れては一緒にリサーチのようなことをするようになったのはここ数年ことです。どこの施設でも、その建物や部屋、敷地をどのように使っているのかを僕はよく観察して質問します。一人一人と向き合って一緒に居るための工夫や投げかけ、細かな調整が物質に現れているからです。なぜそこに名札が貼ってあるのか、そのホワイトボードがそこに貼られているのはなぜか、画材をそこに仕舞うのは、この扉の絵はどなたが、、、。

リベルテに特に関心を持っているのは、上田という街のあり方とリベルテの関係がとても気になるからです。福祉施設がオープンイベントを催すことは少なくないのですが、リベルテのそれは「路地の開き」と名づけられていて、スペースを開いて人を招くこともあれば、利用者さんたちがパレードを行ってどこかへ出かけたり、ふだんの通勤路や散歩をもとにした街歩きツアーをしたり、と少し様子が違いました。徒歩で歩ける距離感に小さく分散した施設はふつうの住宅地の中にあったり、古い町並みを残した道のお店の並びにあったりします。

福祉施設新設への反対運動のニュースや過去の記録を見かけるたび、なぜこのような排除が起きてしまうのかとショックを受けます。一方、なぜ上田では街にいるという当たり前におきてほしいことが起きているのかも驚きます。

リースクールを行う館・上田映劇、女性のシェルターとしても運用されている劇場付のゲストハウス・犀の角がありま す（場づくりネットとの協働）。ほかにも小さな興味深いお店がいくつもあり、リベルテもたちが徒歩10分程度ています。徒歩10分それぞれが徒歩10分でいったイメージが近いです。

その集まりはいま「のきした」という名称で活動していて、毎月13日に「むすびの日」というイベントを開催しています。先日の出張の際、初めて参加しました。Facebookの投稿には「一緒に準備して、一緒に食べて、一緒に片付ける、そんな会です／お申し込みは不要で、来られる時間に来て、出入りも自由です／お野菜やお米など、余っている食材があればお持ち寄りください」と書いてあり、夕方には犀の角の劇場兼カフェスペースに大勢の人と食材が集まっていました。リベルテの利用者さん、スタッフさんもいて、小さい子ども連れも何組も。僕はリベルテの作業を一緒に手伝い、利用者さんの何人かはマルシェに自分のお店を出していました。料理を手伝う利用者さんもいて、すごい量の食事が出てきました。なんとなく食べ始め、大皿をパスしたり、遠巻きに見ていた人に座ってもらったり、子どもの相手をしたり。深夜、閉店したお店のベンチで寝ていた老人も一人で黙々とご飯を食べていました。

最後、皿洗いを手伝いながら話した4人は、全員誰かに誘われて来た人で、誰も全容を把握していないし、僕も含めて初めて来た人しかいない。まちづくりのいい話みたいだなあ、と思いながら、そんな冷めた気持ちにならなかった自分にも驚きました。今年は上田にも通う予定なので、この街で起きていることがなんなのかも考え続けます。

ひとつ、人的なネットワークの素晴らしさを支えた街の（物質的な）歴史のことは着眼点になるはずです。盆地と千曲川が作り出した空間のこと、空襲で焼け落ちなかった城下町であることと、法や制度を前提自治の拡張として福祉や教育を自分引き受けようとしていることは無にせず、たちで関係ないのだ、と思いつつ……。

荒川 ARAKAWA

武田 | Yuko Takeda

MEMO そろそろ台湾行きの準備をしなくてはいけない。今年は夏夏秋冬になってしまう気がしているので、お花見をしたいです。

荒川の堤防探検に行ってきました

甲武信ヶ岳　埼玉県立 川の博物館　荒川水系

埼玉県立自然と川の博物館が開催する、「荒川の堤防探検5 横堤」に山川くんと参加してきました。この博物館は大宮から北西方向に車で1時間くらい行ったところにあり、〝埼玉の母なる川――荒川――を中心とする河川や水と人々のくらしとのかかわり」を様々な体験学習をとおして、理解してもらおうとすること〟を目的としているとのこと。我々は昨年11月に荒川にまつわる作品を発表し、今後も川をテーマにする作品を作りたいという思いもあり、こんな博物館があったのか……と、後悔と期待が入り混じる気持ちでWebを見ていたところ、たまたま発見したこのイベント。

〝荒川流域に整備された様々な種類の堤防を歩いて学ぶウォーキングイベントの第5弾として、現在の荒川を特徴づける堤防といえる「横堤」を巡るウォーキングを行います。〟とのこと。

まずもう横堤がテーマだなんでニッチすぎるし、しかも合計6時間、総距離約12kmとあるではないか。なんとストイックなツアーなのだろう。以前、2時間越えのツアーパフォーマンスを作ってしまい、長すぎるしないかと大変心配したことがあったのだが、そんな心配はいらないんだぜ、と勇気をもらったような気にもなり、このイベントにすっかり魅了されてしまった我々は速攻で申込み、この日を楽しみにしていたのである。

当日は総勢20名が博物館の学芸員の方に引率されながら、荒川の堤防やその周辺を北から南へひたすら歩く。荒川第二調節地のために造成工事が現在行われている場所から、江戸時代の自然堤防の高さが今も残る場所まで、荒川の特徴とも言える横堤を巡りながら、計20箇所で様々な話をしてくれた。我々が『Lines and Around Lines - Case in さいたま』でルートにしたまさにその場所も含まれていて、解説とともにあの風景を見ることができたのも良かった。

歩いたエリアのほとんどは畑や田んぼが多かった。各解説では、川や地形との関係の中でここが畑や田んぼである理由、そして江戸時代あたりから現在にかけてどのような変更が加わっているのか／いないのかという、いわば縦軸と横軸のようなものを一つ一つの景色に対して見せてくれるような体験だった。そのグリッドがなんとなくわかってくると、解説がなくとも何となく推察がつくようになってくる。目の前の風景の意味を20人で確かめながら、ぞろぞろと北から南へと移動した。最終的には、学芸員の方が「はい、ここからこっち方向に（地面が）上がっていますね、向こうは下がっていっていますね、はい、そういうことです」というシンプルすぎる説明で、それが何を意味するのか（この時は、江戸時代の自然堤防の名残をたどるための説明）を完全に全員が理解できていた。

この瞬間こそツアーの醍醐味であったような気がする。

ブラタモリを毎週欠かさず見ているであろうおじさまや、「多摩川」と書かれた河川標識をミニチュアにしたキーホルダーをリュックにつけたお姉さまなど、メンバーはかなり〝地形上級者〟であったことは否定できないが、6時間の歩行により何かを体得した我々は、ゴール付近でそれぞれが目指すバス停へむにゃむにゃと別れていき、特に終わりらしい終わりもなくあっけなく終了したのであった。大きな水の流れと、それと暮らしてきた人間の長い年月について思いをめぐらせながら、不思議な風景をたくさん歩いた1日だった。そういえば、荒川の流れはやはり見えなかった。

背景画像＊国土数値情報河川データセットより、荒川と信濃川（千曲川）

Transfield Studioとは……アーティストの山川陸、パフォーミングアーツプロデューサーの武田侑子によるユニット。ツアー形式の作品を通じて「どうすれば集まった我々は共にいられるのか」を考え続けてる。今年も国内外各地をうろうろしてきます。

HP www.transfieldstudio.com
@transfieldstudio
@Transfieldstd

デザイナーからひとこと 先々週は時間があり一日新宿で用事を済ますことに。伊勢丹と紀伊國屋で買物、二艘木洋行さんの定食屋ロドスで昼食、修理が済んだ腕時計の受取。帰り道の明るい夕方、甲州街道を自転車で下っていくと、前方の摩天楼がゆっくりと右方へ流れ、首都高がなだらかに上空へ沿ってゆく……爽快さと、これでいいのか？ という気持ちが混交する、まさに大都会の感覚が沸き上がるのであった……。（鈴木） ◉テーマ曲：Alicia Keys - Empire State of Mind (Part